

★富嶽両界峯入修行のご報告

『檀家さんに聞く』をお休みしまして、前号でお伝えしていた富士山での修行について報告させていただきます。

「^{シュゲンドウ}修験道とは修行を積み^{ケントク}てその験徳を顕^{ソウロウ}わす道にて候。」と言われる通り、修験者の本分とされる山岳修行に身を投じて参りました。この度は、本宗の総本山聖護院門跡の末寺であり、また私の大先輩にあたる宮元隆誠師率いる^{ヤマトシュゲンカイ}大和修験會による、海拔0 mから富士山へ登拝する修行に参加してきました。



1日目は富士宮市鈴川海岸での水垢離から始まりました。遙か遠方に霞む富士の山頂を見つめながら道中安全を祈念し、海水に飛び込みました。↓



いよいよ富士の山頂に登拝する3日目、天候は奇跡的に好転を重ね、美しい御来光に照らされながら人生初の標高3000mを超える世界に入りました。



峯入りの前の前行として、麓の吉原商店街を御祈願して回りました。10才の男子は今回が参加3度目の大先輩。



雲海が広がる絶景の上、頂上までもうひと頑張り。声を掛け合い六根清浄、ラストスパートの踏ん張りです。



2日目は標高500mから。瑞々しい原生林が茂る村山古道を通り、標高2500mの山小屋まで12時間以上かけて歩き続けました。



賽の河原を彷彿とさせる山頂の一角。多くの託された想いに感じ入りながら、自分達がここまで登拝叶ったことを感謝し、供養の読経を捧げます。



通常ならこの時期既に登山道は閉鎖され、山小屋も閉まっています。雲海荘さんのご厚意により、我々の為に特別に営業して下さいました。



吉田ルートを一っきに下り星観荘に宿泊。4日目の早朝は小御嶽神社に参拝しました。ここからまた原生林の森を通り、樹海を抜け精進湖を目指します。



早朝3時に起床、ヘッドライトの灯りだけを頼りに溶岩が固まってできたガレ場を黙々と進みます。恐れていた高山病には罹りませんでした。↑



ついに辿り着いた精進湖の端。修行をさせていただいたという感謝の気持ちを胸に刻みつつ、気持ちは日常という次の修行の場に向かっていました。

※ホームページでは詳細な修行記を載せています！